

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度第2回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和6年2月21日(水) 午後1時30分～3時
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議 題	(1) 報告事項 (ア) 次期高松市教育振興基本計画(生涯学習・社会教育関係部分) (案) について (イ) サンクリスタル高松のリニューアル事業の概要について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	山神委員、岡委員、大村委員、笠井委員、松下委員、野上委員、山口委員、 合田委員、松田委員 (欠席委員0名)
傍聴者	1名(定員5名)
報道記者	0名
担当課及び連絡先	生涯学習課 839-2633

会議の経過及び結果

(1) 報告事項

(ア) 次期高松市教育振興基本計画(生涯学習・社会教育関係部分)(案)について

次期高松市教育振興基本計画(生涯学習・社会教育関係部分)(案)について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

次期高松市教育振興基本計画と、国の教育振興基本計画や高松市の関連する計画との整合性が分かりにくい。例えば、子ども・子育て支援推進計画との整合性や連携について、どこに表れているのか。

また、施策の指標について、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合」という項目が「Ⅲ-1 家庭・地域の教育力の向上」と「Ⅲ-2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進」という2つの施策の指標となっているが、同じでいいのか。家庭の教育力を測る指標がないのではないのか。

(事務局)

子ども・子育て支援推進計画との整合性について、「基本目標Ⅲ 家庭・地域とともに育む教育の向上」の中に、「放課後子ども教室」について盛り込んでおり、放課後の子どもの安心・安全に向け、家庭・学校・地域が連携するという部分で重なってくると考えている。子ども・子育て支援推進計画の進捗状況も確認しながら、教育振興基本計画の中でも施策の評価を行っていく。

指標が重複している点については、コミュニティ・スクールの仕組みを生かしたり、地域学校協働活動を行ったりすることで、家庭・地域の教育力の向上、学校・家庭・地域の連携・協働の推進それぞれにつながっていくと認識している。

(委員)

家庭の教育力の向上には、親世帯の精神的・時間的な余裕が重要な要素になってくるのではないのか。放課後子ども教室等の取組は、間接的に家庭の教育力の向上につながるもので、他部局の事業で

会議の経過及び結果

あっても連携を図っていくことが1つの手段になるのではないか。

(事務局)

子ども・子育て支援推進計画は、来年度から見直しに入るので、その中で教育振興基本計画とのすり合わせも行っていきたい。

(委員)

「Ⅲ－1 家庭・地域の教育力の向上」の「子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合」という指標が、分かりにくい。今の保護者にとって、子ども会はどのような位置付けと認識しているか。

また、「Ⅲ－3 青少年の健全育成の推進」の「未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数」という指標について、令和13年に1,800人という人数はどのように算出したのか。

(事務局)

リーダー研修会については、教育委員会と子ども会の共催で年に2回実施しており、子どもたちに集団行動や子ども会活動に必要な実技指導を行うことを目的としている。研修会に参加した子どもたちに、リーダーとしての自覚が高まったかどうかのアンケートを実施する予定である。

子どもたちが違う学年の子どもや大人との活動を通して社会性を学んでいくことは重要だと考えており、今後も子ども会との連携を進めていきたい。

(事務局)

「未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座については、対象となる保護者の数を年間2,000人程度と見込んでおり、毎年その内の1割に当たる200名に講座を受講していただき、令和13年までで約1,800名の受講を目標としている。令和5年度については、現時点で延べ260名の方が受講している。

(委員)

リーダー研修会では、子ども会の目的でもある自然に親しむことや異なる年齢の子どもたちと仲良くすること等について、体験を通して学んでいる。

子ども会では、先日、新春子どもフェスティバルを開催し、約4,500人の方が参加した。こうしたイベントや各校区での行事に参加し、子どもたちが様々な校区の子どもたちや様々な世代の方と交流を行う中で、生きる力を養うことを目指している。

各校区での活動の評価を行うことはなかなか難しいので、地域の教育力を測るためには、リーダー研修会でのアンケートが1つの指標になるのではないか。

(委員)

「Ⅳ－1 多様な学習機会の充実」の施策内容に「障がい者の社会参加を支援するために、障がいの有無にかかわらず、共に学ぶ機会を提供します。」とあるが、障がい者の社会参加の支援より、障がい者の社会参加と生涯学習を活性化させるために学ぶ機会を提供するという表現の方が、自ら学びたい障がい者の方にも公平に学ぶ機会を提供するという意図が伝わるのではないか。

(事務局)

検討したい。

(委員)

「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人と

の協働による活動を行っている小学校の割合」という指標について、別の施策に同じ指標を使用している点が少し気になる。

(事務局)

指標としては同じだが、家庭・地域の教育力の視点と学校・家庭・地域の連携の視点で見た場合という形で整理している。

(委員)

家庭の教育力の向上について、対象者を幅広く設定した適当な指標はなかったのか。

(事務局)

家庭・地域の教育力をどのような指標で測るのが、大きな課題である。今回いただいた御意見を基に、4年後に計画の見直しを図っていきたい。

(イ) サンクリスタル高松のリニューアル事業の概要について

サンクリスタル高松のリニューアル事業の概要について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

飲食ができるスペースがあるといいのではないかな。

また、地元の人が誇りに思えるような場所になればいいのではないかな。

(委員)

施設についてもっと知ってもらい、来館者の増加につなげていただくとともに、有効に活用できるようなソフト面の検討をしていただきたい。

(事務局)

サンクリスタル高松の活用法、認知度の向上に向けた取組について検討していく。

(委員)

若い人たちが来るような施設になると、次の世代にもつながっていき、より利用者が増えてくるのではないかな。効果的な情報発信をしていただきたい。

(3) 「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。

取り組んでいることで、紹介したい内容がないか確認する。

【事務局からの報告事項】

- ・「英語版「高松わくわくかるた」」を説明

その他意見等はなかったため、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。

以上